

課題名	20. 草生みかん園における草の生育量と窒素吸収量						
成果の要約	<p>1) 樹冠下を除いた年間草量は、ほぼ3.2t/10aで、半分が春草(4、5月)である。</p> <p>2) 草による収奪窒素量は、園全体で8.4kg/10aであり、その半分が5月までの刈取り草量によるものである。</p>						
成績概要	第1表 時期別の刈取り草量とその窒素含量						
	年次	刈り取り時期					合計
		1	2	3	4	5	
	57	4/19 123 (40) 388 (31)	5/27 60 (20) 289 (23)	7/6 50 (16) 282 (23)	9/8 72 (24) 294 (23)	— — —	305 (100) 1253 (100)
58	4/21 50 (20) 182 (19)	6/7 40 (16) 200 (21)	7/22 71 (28) 223 (23)	9/6 66 (27) 239 (25)	10/24 23 (9) 118 (12)	250 (100) 962 (100)	
59	4/18 110 (25) 407 (20)	5/23 97 (22) 475 (24)	6/21 113 (25) 487 (24)	7/31 57 (13) 324 (16)	9/11 68 (15) 310 (16)	445 (100) 2003 (100)	
60	4/2 150 (24) 645 (24)	5/13 183 (30) 786 (29)	6/21 115 (19) 490 (18)	8/1 76 (12) 354 (13)	9/20 91 (15) 428 (16)	615 (100) 2701 (100)	
要	<p>注) 上段は刈り取りの時期、中段は生草量 (kg/a)、下段N含量 (g/a)で、()内は比率 (%)を示す。1区の規模は、57年が5樹/1.2a、58年以降は3樹/0.9aである</p> <p style="text-align: right;">(昭60長崎果試)</p>						
普及上の留意点							